



## 国際交流員ウィルペルトのコラム

## ドイツ人とその書体・後編

### Die Deutschen und ihre Schrift Teil 2

(ディー・ドイチェン ウンド イーレ シュリフト タイル ツワイ)



3月号のコラムに書いた活字の書体「フラクトゥア」と「アンティカ」を覚えていますか？今回は手書きの書体のうち、筆記体について書きます。ドイツの小学生にとって、均整がとれていて読みやすい筆記体を書くことは重要だからです。

ドイツ語圏では、活字と同じように筆記体にも主に2つの書体が存在しました。ドイツ文字の筆記体「Kurrentschrift (クurrentシュリフト)」とラテン文字の筆記体「Lateinische Schreibrift (ラタイニシェ シュライプスシュリフト)」です。この2つには、活字のフラクトゥアとアンティカと同様、様々な種類がありました。

α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ  
 μ ν ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω  
 α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ  
 α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ  
 μ ν ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

クurrentシュリフト (以下「クurrent」)

A B C D E F G H I J K L  
 M N O P Q R S T U V W  
 X Y Z Ä Ö Ü ä ö ü  
 a b c d e f g h i j k l m  
 n o p q r s t u v w x y z ß

ラタイニシェ シュライプスシュリフト  
 (以下「ラタイニシェ」)

16世紀から、手書きでは、ドイツ語の文章にはクurrent、外来語にはラタイニシェが使われていました。しかし、ヒトラーが、フラクトゥアと同時にクurrentを好ましからざる書体としたので、学校ではラタイニシェを使うことが義務付けられました。

現在、ドイツの子どもたちは小学1年生で、1文字ずつ書き上げるブロック体のアルファベットを教わります。書き方は、鉛筆で練習します。2年生になると次の段階に進みます。新たに筆記体を教わり、万年筆での書き方を習わないといけません。

なぜなら、鉛筆よりも万年筆で書く方が難しいからです。

万年筆のペン先は、筆圧の強弱に反応します。力を入れすぎると、ペン先が分かれてしまってインクが出なくなります。持ち方が斜めすぎたり、垂直すぎたりすると、うまく書けません。ペン先の向きに逆らって書けば、紙に引っかかってしまいます。万年筆のその特性が、子どもたちに力の入れ方、手指の使い方、正しい姿勢、丁寧に細やかな作業を行う技術などを自然に身につけさせるのです。

子どもたちにとっては、万年筆と筆記体への新たな挑戦です。1つ1つの文字をつなげながらきれいに書くためには、かなりの注意が必要です。注意しなければ、線の強いつながりのせいで読みにくい文字になってしまいます。だから、多くの練習が不可欠です。

筆記体のようにつながっている書体を習得した生徒は、文章をよりよく記憶し、その意味をより容易に把握できるという研究結果があります。また、ブロック体よりも、筆記体のほうが早く書くことができます。

私の経験では、ドイツ人はみんな、手書きの筆記体にちょっとブロック体を混ぜて書きます。すべての文字をつなげるのは難しいから、途中でペンを紙から離して、手をスムーズに動かすためにブロック体の1文字を入れて、またつなげて書きます。こうすると、手が疲れなくて早く書くことができます。

Wenn Deutsche mit der Hand schreiben, sieht es oft so ähnlich aus. Können Sie es lesen? Wohl nicht so einfach ☺.

ウィルペルトさんが書いた ↑筆記体 ↓ブロック体

Wenn Deutsche mit der Hand schreiben, sieht es oft so ähnlich aus. Können Sie es lesen? Wohl nicht so einfach ☺.

(訳) ドイツ人が手書きで文章を書くとき、こんな感じになることが多いです。読めますか？ 多分、簡単には読めないでしょう☺。

試しに、筆記体で書いてみましょう！ 大切なのは、文字をつなげることと、途中でペンを離さないで書くこと。Sを書いたら、ペンを離さずにすべての文字をつなげることです。最後に、iの点とtの横線を書きます。

(見本) Shimotsuke (しもつけ)

書き順

Shimotsuke

ここに書いてみましょう！

できましたか？ もっとやってみたくありませんか？ ドイツのカリグラフィーに興味はありますか？

広報しもつけ5月号では、カリグラフィー講座のお知らせをしますので楽しみにしててくださいね！